

6. 浄国寺～素鷲熊野神社～西円寺コースガイド

石の蔵駐車場→津軽河岸・磯山邸→浄国寺・宮本茶村墓→素鷲熊野神社

→潮来郷校跡碑・天狗党殉難者記念碑→恵雲寺→潮来陣屋跡→

長勝寺駐車場→西円寺遊女碑→天王河岸・自準亭跡碑→石の蔵駐車場

集合場所：石の蔵駐車場



水郷潮来観光ボランティア連絡協議会

浄国寺～素鷲熊野神社～西円寺コースガイド 【所要時間】約2時間

石の蔵駐車場（トイレ）→津軽河岸・磯山邸→浄国寺・宮本茶村墓→潮来の大櫓・
素鷲熊野神社（トイレ）→潮来郷校跡碑・天狗党殉難者記念碑→恵雲寺→潮来陣屋跡→
長勝寺駐車場（トイレ）→西円寺遊女碑→石塔寺→天王河岸・自準亭跡→石の蔵駐車場

1. 津軽河岸周辺（弘前藩潮来蔵屋敷西側）

弘前藩津軽氏蔵屋敷・河岸跡地は、現津軽河岸前川沿いの石蔵の上流側（東側）にあります。石蔵の所は津軽河岸の屋外荷捌き場で、前川に石田川が合流点より下流側（西側）は、天王河岸の屋外荷捌き場です。既存の石蔵を改修し、石田川の河口に河岸を復元し、観光スポットとして活用されています。

令和4年から「あやめ祭り」のイベント「嫁入り舟」の舟乗り河岸になっています。

弘前藩津軽氏の記録によれば、寛永3年（1626年）より江戸藩邸で必要とする米等の物資は、国元より回漕、やがて換金物資として米以外の木材等を回漕しました。

米は藩財政逼迫により、借金の担保として大阪にも回漕されました。

河岸・蔵屋敷の最盛期は、元禄期（1688～1703年）迄で宝暦11年（1752年）頃潮来への廻船を終え、機能は銚子に移りました。

文献：潮来市郷土史研究会出版「ふるさと潮来35号前川の河岸」より抜粋

参考：写真の花嫁が乗舟している岸壁は、天王河岸の東端です。



←石蔵

嫁入り舟
乗り場→



2. 磯山邸

磯山邸は明治32年建築の、古き良き時代の潮来の佇まいを残した古民家です。

延べ床面積約110㎡の木造平屋建てで西側には約90㎡の庭もあります。

太い梁と約30cm角の櫓の大黒柱と組子細工の引戸、欄間、床の間窓等が見ものです。

地方創生事業として耐震強度を高め、リニューアルしてイベント会場や宿泊施設として活用しており、あやめ祭りでは嫁入り舟の花嫁さん達の控えの間、休憩所になっています。



←磯山邸

磯山邸
屋内→



↓10分

6-2(25)

3. 浄国寺・宮本茶村墓

浄国寺は文禄元年（1592年）の創建で本尊は阿弥陀如来です。聖観音像は延享元年（1744年）作にて『安産子育て観音』として、水郷観音第三番霊場にもなっています。潮来8人頭（石田、窪谷、関戸、宮本）家の墓地、「いはらき」（現「茨城新聞」）を創刊した関戸覚蔵の墓、道路西側には江戸時代の考証学者・教育者・庄屋、宮本茶村の墓があります。



←浄国寺
正門

宮本茶村
の墓→



↓10分

4. 潮来の大櫓・素鷲熊野神社

素鷲熊野神社は、辻の天王原に祭られていた小社を、文治4年（1188年）に潮来の天王河岸へ移し、牛頭天王と呼んだのが素鷲神社の始まりです。元禄9年（1696年）に一村一社の政策により現在地に移り、熊野三社権現と相殿になりました。

さらに天保15年（1844年）、牛頭天王は仏教色の強い呼称から神道的な素鷲神社へと社号を改め、同時に熊野三社権現も熊野神社に名前が変わりました。明治10年（1877年）に長く相殿であった両社は、素鷲熊野神社となって現在に至っています。潮来の大櫓は樹齢780年の茨城県指定文化財天然記念物で素鷲熊野神社の神木です。



←潮来の大櫓

素鷲熊野神社→



↓20分

5. 「水戸烈士殉難碑」、「筑波山拳兵 元治元年甲子ノ変 殉難百五十年記念碑」、「潮来郷校跡」碑

潮来郷校は安政4年（1857年）に南郡奉行金子孫二郎（のちに桜田門外の変の首謀者）の肝いりで建てられ、岩谷敬一郎（のちに天狗党の乱リーダーの一人）が当初館長を務めました。当時、小川・湊・潮来の郷校は「三館」と呼ばれ、尊王攘夷の激派が集結するようになり諸生派と対立しました。元治元年（1864年）には武田耕雲斎の

提言で治安鎮静を目的に潮来陣屋を設けましたが、逆に攘夷過激派の拠点と化し、天狗党騒乱では潮来郷校は陣屋ともども幕府の掃討軍により焼き討ちされてしまいました。

郷校に学んだ多くの若者たちも犠牲になり、大発勢に加わった81名、天狗党と運命を共にした61名の名が、銅板に刻まれた「筑波山挙兵 元治元年甲子ノ変 殉難百五十年記念碑」及び「水戸烈士殉難碑」、「潮来郷高跡」碑が潮来一中の坂の途中に建てられています。



潮来郷校跡碑

↓ 20分



水戸烈士殉難碑他

6. 恵雲寺

徳大山恵雲寺と号し元禄4年（1691年）創建の日蓮宗妙光寺旧末寺です。本堂裏手の奥まった所に七面堂というお堂があります。このお堂は内田山にあった延方郷校の最初に建てられた孔子聖堂と言われています。現在二十三夜尊堂として使われている孔子聖堂が建てられる前にあった聖堂でこの地に移築されました。



← 恵雲寺
正門

七面堂→



↓ 10分

7. 潮来鎮台（陣屋）跡

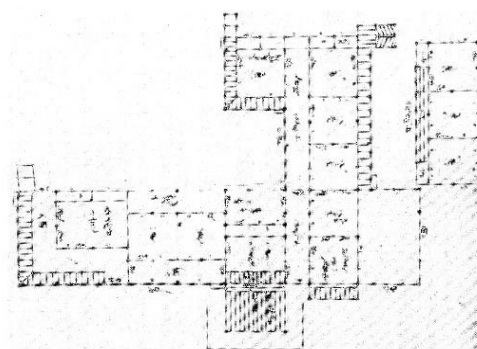
弁財天山に武田耕雲斎の提言で元治元年（1864年）2月着工しましたが、9月には幕府掃討軍により焼失しました。

（5. 項参照）

↓ 20分



潮来鎮台（陣屋）跡碑



第6図 潮来鎮台の図（国文学研究資料館蔵、源田家文書）

8. 西円寺

梅龍山西円寺 浄土真宗大谷派 別名中寺（なかでら）元禄5年（1692年）開基。門の正面に潮来市指定文化財の樹齢400年とも伝えられる大きな銀杏の木があります。銀杏の木の横に小林一茶の句を夏目漱石が書き、句の下に小川芋銭の描いた絵が彫られた『三味線で鳴（しぎ）を立たせる潮来かな』の句碑があります。

小林一茶は文化14年（1817年）5月26日に鹿島詣での後、大船津より舟で潮来に来て俵屋に宿泊して27日に銚子に行っています。

遊女の墓には昭和54年5月に島田三郎氏建立の供養塔「衆生済度遊女之墓」があり、潮来遊郭で苦界に身を沈めた遊女女郎の歴史、由来などを伝える石碑「衆生済度遊女之碑建立の詩」碑もあります。



衆生済度遊女之墓



小林一茶句碑



西円寺本堂

↓10分

石塔時經由

9. 天王河岸・自準亭跡碑

素鷲熊野神社の南に位置し、素鷲神社が天王原から文治4年6月に遷座された地で、天王河岸の名前も牛頭天王（素鷲神社）つまり天王様の名によります。今は、潮来祇園祭時に御飯屋を建てる場所として鳥居と常夜灯などがあり、昔の面影が偲ばれます。

自準亭は医師で松尾芭蕉とも親交の深い本間道悦が潮来天王河岸に居を構え、「自準亭」と名付けた診療所を開設し診療を行うとともに「読み、書き、そろばん」を中心に日常生活に必要な教育を行いました。

芭蕉は貞享4年（1687年）8月鹿島の根本寺の仏頂禅師の招きで弟子の曾良と宗波を伴い月見を行い、帰路自準亭に逗留し長勝寺にある三吟連句を読んだとされ、この時の紀行文が『鹿島紀行』として知られ、『奥の細道』の2年前のことです。



←本間自準亭跡碑

↓20分

10. 石の蔵駐車場

6-5 (28)